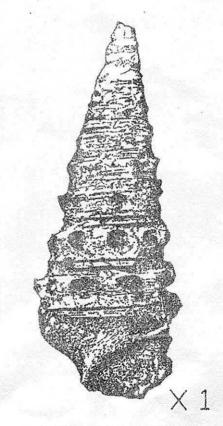
作石は普通、地面の下の岩石の中に入っていて、私達の目には見えないことが多く、山のがけ、河床、採石場や道路の切割りなどで 時々見ることができるぐらいです。 しかし、作石は過去の世球の ようすを私達に教えてくれる実に貴重なものなのです。 今月は、 その作石の中でも富山県に縁の深いピカリアという巻貝の作石を紹 介しましょう。

ピカリアは右の図のような化石 で、現在生きている巻見のウミニ ナの仲間とされています。 貝殻 は大きく、殻の表面には大小の棘 状の突起や巻きの方向に平行は線 (練筋)があります。

ビカリアはアジア地域(インド ビルマ、ジャワ、セレベス島、フィリピンなど)の新生代第三紀の 始新世から中新世(今から約5300 万年前~約1200万年前)の地屬か らでてくることがわかっています。 日本では北の北海道から南は沖縄



ヤマトビカリア (Vicarya callosa japonica)

までとその分布は広く、特に、中新世中期(約1600万年ぐらい前) の世層からたくさんでてきます。 それらのなかでは、次の4種類 が知られています。

*Vicarya callosa japonica (ヤマトビカリア)

*V.yokoyama! *V.yatsuoensis

富山県の八尾地域からは、八尾の地名にちなんでつけられた♥♡、 yatsuoensisをはじめ、V.c.japonica, V. yokoyamai がでてきます。 このほかにも、ビカリアに似ていますがやや小さい参見のビカリン うやセンニンガイの仲間、それに植物のフウの葉などの化石がでて きます。 ビカリアやビカリエラは現在生きてはいませんが、セン ニンガイは熱帯のマングローブ湿地の暖かい汽水域(渇や河口域は どの淡水と海水が湿じったようは水域)に現在も生きていますし、 フウの木も亜熱帯から温帯までに分布し、今も台湾はどに自生して います。そのころの日本は、ちょうど今のインドネシアやフィリ ピンのような多くの島々からできていたことも明らかになっていま す。このように、ビカリアといっしょにでてくる化石をあわせて 考えてみると、富山県を含めてその当時の日本は現在の執帯や重要 帯のように気温が高く、当時の海岸にはマングローブがおい繁って いたのでははいかと思われます。



富山市科学文化也39-

富山市西中野町3丁目1番19号(〒930-11) 電話 富山(0764)91-2123(代表)